



①キャンプサイトは1日1組限定。壮大な海の景色を独占できる。②元旅館をリノベーションして今風のカフェに。手作り感が温かさを感じさせる。③「友人が遊びに来たらまずこの絶景に感激し、そして車で5分のところにコンビニがあることに驚きます。京阪神へのアクセスの良さも紀中エリアの魅力ですね」。④サップのスタート地点・矢櫃漁港へは迷路のような路地を徒歩で移動。ここから海の探検へ繰り出す。⑤サップの収納倉庫。ご近所さんから「空いているから使ったら」と声をかけてくれたそう。

矢櫃の町の魅力伝える

①すれ違うご近所さんに、親しげに手を振る寛子さん。出会う人が皆顔見知りというのも矢櫃地区の魅力。②細い路地や階段の両側に民家が立ち並び。まるでダンジョンに迷い込んだかのよう。③海辺から見上げた風景。青い空、緑の山肌に白い建物が映える。④漁港を見守るように建つのは、初代紀州藩主徳川頼宣を祀る南龍神社。矢櫃は頼宣公が海上警備のため旧古座町から2組の夫婦を住ませたのが始まりだったという。



「矢櫃の絶景を一望できるこの場所が一番のお気に入り」と笑顔の西村さん夫妻。

YABITSU VILLAGE

住所／有田市宮崎町1534
電話／090-9051-8062
料金／キャンプサイト平日15,000円・土日祝25,000円(1泊2日)
施設使用料／大人1,800円小人1,200円・SUP／5,500円
<http://yabitsuvillage.com>

元ホテルで腕を振るっていたシェフが運営しています。彼も矢櫃に移住してきた友人のひとり。他にも僕の両親などこの景色や住みやすさに惹かれ移住してきたんですよ」とヤスハルさん。今後は地元元の宿泊施設と連携をとりながら、アウトドアプログラムを増やして行きたいという。「色々な体験を通じて、矢櫃の持つ懐かしさと雰囲気好きになってもらいたいですね。そして、そんな人たちがまた移住してきたりすると、もっと楽しくなりそうです」と笑顔で語っていた。

絶景キャンプや海のアクティビティで魅力発信

YABITSU VILLAGE 代表 ● 西村ヤスハルさん

有田市の小さな漁村で、楽しそうに「ヤビツレヅ」を営むのは、大阪から移住してきた西村さん夫妻。常々、結婚を機に田舎暮らしをしたいと話していたふたり。「僕は釣りが好きなので、海辺の町を中心に探していたのですが、ヤビツの景色に一目惚れしてしまいました」と夫のヤスハルさん。海に面した山の斜面に家が密集する矢櫃地区のその絶景は、日本のアマルフィとも言われる人気の場所。思いは強くなるが見知らぬ土地。移住への不安は拭いきれない。しばらく思い悩んでいた、空き家を格安で貸してくれるという地域の方に出会った。「住んでみてダメなら帰ればいいやと、お試しのような気持ちで引越してきました。暮らし始めると、ご近所さんが何かと気にかけて声を掛けてくれる。そんな町と人の温かみが大好きになりました」と妻の寛子さん。車があれば実家のある大阪へ約90分。スーパーやコンビニも近くにあり、便利さは都会と変わらないことを再認識。半年も経たないうちに移住を決意、そして仕事と生活の拠点作りを始めた。

まずは住居兼仕事場として、海が一望できる元旅館の建物を購入。できるころは自分たちでリノベーションし、まずはカフェをオープンさせた。SNSの情報発信によりお客様が増え、さらにキャンプサイトやBBQ、サップなどを提供するアウトドア事業も始めた。「現在、カフェは

温暖な気候に育まれ、 海の恵みも堪能 みかん王国・有田市



和歌山県中部に位置する有田みかんの主産地・有田市。春はみかんの花の香りに包まれ、秋は山の斜面がオレンジ色に彩られる。漁業も盛んで、箕島漁港はタチウオの漁獲量日本一を誇るほか、年間約300種の魚種が水揚げされる。漁港近くの産直市場「浜のうたせ」では、直送された魚を販売。食堂もあり休日には県内外の来訪者で賑わう。